

瓦の持つ魅力が、住まいを生まれ変わらせる

住まいを守り、美しさを形作る屋根。高い信頼性を誇る瓦で住まいを美しく快適に。



老朽化した瓦を葺き替えることで見違えるほど美しくなります。



棟に飾りのしを入れることによって高級感を印象付けます。



和形スレート瓦をいぶしの平板に棟積みすることで新和風の味を出します。



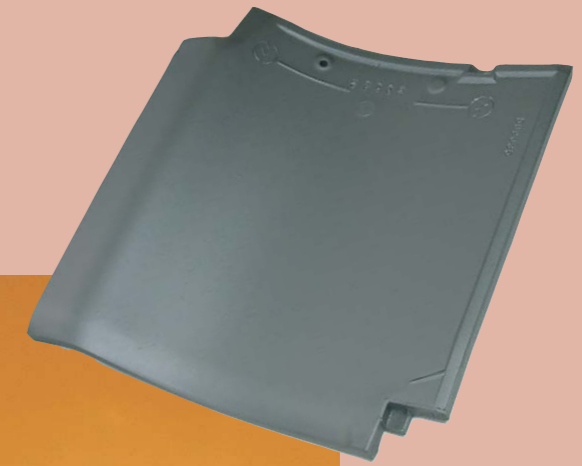
屋根の葺き替えと同時に壁を土蔵風にする事で、落ち着いた雰囲気に。



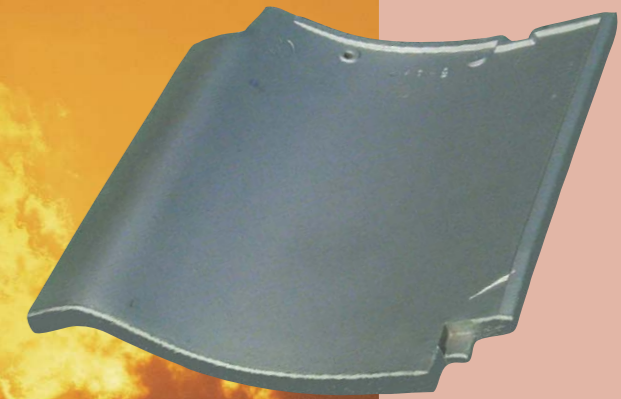
棟を積まない洋風S形瓦から棟を積む和風屋根にすると家に重厚感を与えます。



洋風スレート瓦をいぶしの平板瓦にすることで高級感を醸し出します。



ナイスミドリ(面取)



ナイスミドリ(切落)
縦棧工法可能



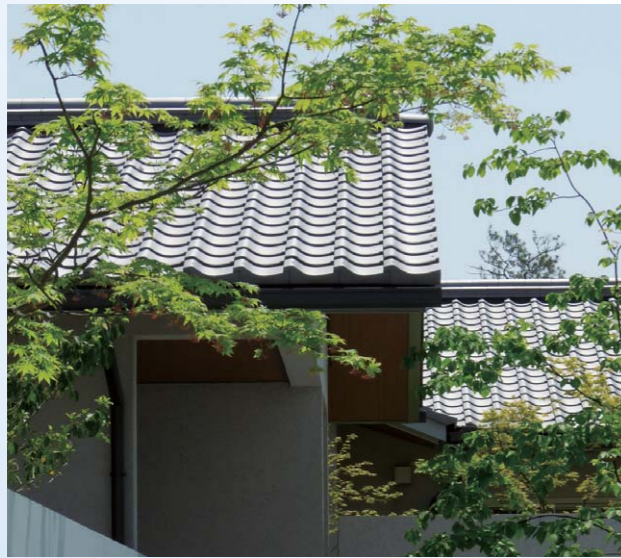
緩勾配瓦ナイスミドリ+ONE(面取)

風と振動を制する「合体構造」
ナイスミドリ
ナイスミドリ+ONE

日本家屋の快適性を保つ、強さと施工性。

何気ないふだんの景色に、すんなり溶け込むスタンダードな魅力。奥に秘めた力強さが、日本家屋の素晴らしさを守ります。

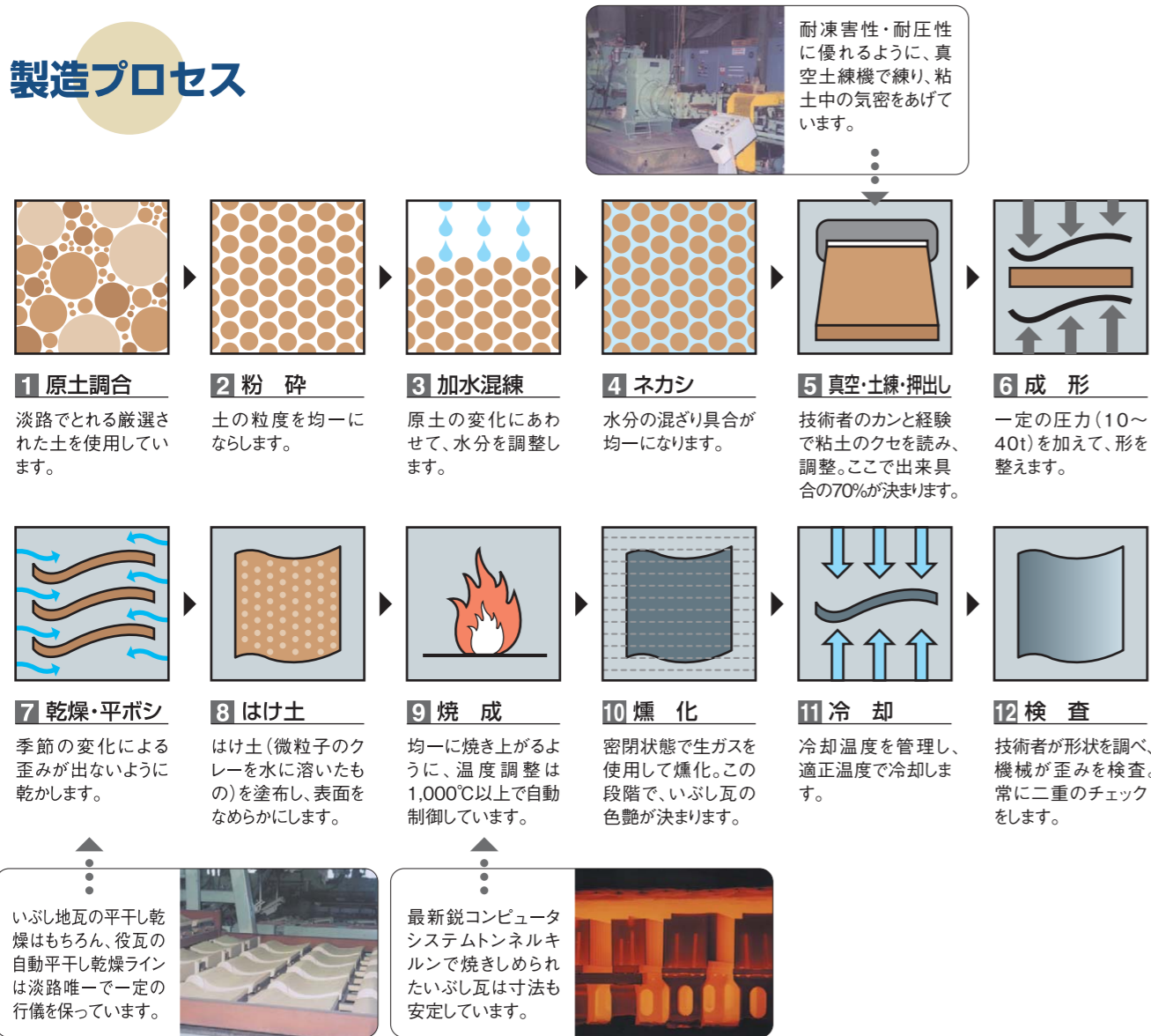
ナイスミドリ/ナイスミドリ+ONE<防災タイプ>



コンピュータと職人技の融合が、 クォリティや新しい付加価値を生みだします。

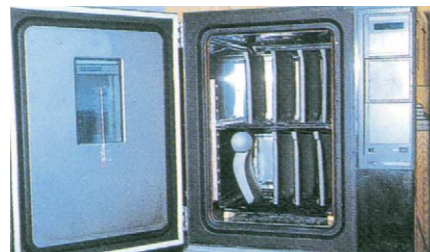
私たちは、常に最高のいぶし瓦をつくるため、全自動ラインによる徹底した品質管理を実践しています。
しかし、瓦はもとも天然の素材であることから、完全に自動化できない部分があるのも事実。
そこで緑窯業では、瓦づくりを機械任せにするのではなく、コンピュータ制御に“カン”や“塩梅”といった職人の技を取り入れ、独自の製法を確立。クォリティや付加価値の高い商品を生み出しています。

製造プロセス



品 質 試 験

■凍害試験
淡路瓦メーカーでは唯一凍害試験機をもち、-30°で随時試験を行い、耐寒性の検査をしています。



■耐圧試験
耐圧試験ではJIS規格の1500Nを越える2500Nを常時だしています。(1kgf=9.8N)



伝統の美しさに、高い信頼性をプラスしました。

ナイスミドリ

屋根全体がひとつの瓦。
合体パワーが屋根をしっかりと守ります。

自然災害の影響を受けやすい日本家屋。その被害から、しっかりと守ってくれるのが、独自に開発した《合体構造》によってズレや飛散、落下などを防ぐ、画期的な防災瓦「ナイスミドリ」です。

“屋根全体をひとつの瓦に”という発想から、切り込み部分に付けられたツメにより、瓦と瓦をガッチリと合体。優れた施工性とデザインの美しさに加えて、地震や台風に強い、高い信頼性をプラスしました。

■合体構造



2つのツメのかみ合わせにより地震や風雨による瓦の拡散を防ぎます。

緩勾配瓦

ナイスミドリ + ONE(プラスワン)

緩勾配屋根に最適。
最低2寸8分勾配の屋根でも安心です。

新築物件は勿論、セメント瓦等の緩勾配屋根の葺き替えにも安心してお勧めします。瓦表面上部、横縁に高さ6mmの立ち上りと、襟部分に二段の水返しを施し、裏面下部に毛細管作用防止の一線を施して、逆水、漏水、横漏れを完全にシャットアウトします。また、2つツメのかみ合わせにより地震や台風等による瓦のズレや飛散を防ぎます。合体構造なので、抜群の耐震・耐風性を発揮。地震や台風等の災害から住まいを守る優れたものです。

■合体構造

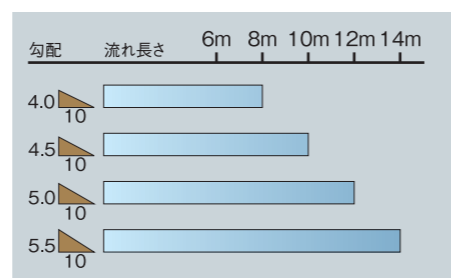


■ナイスミドリ耐風性能(釘1本での緊結実験)

	計算式	従来の瓦(53A型)	ナイスミドリ
引き上げ力	53枚÷3.3m ² =16枚/m ² 引き上げ力(kg)×16枚=kgf	3kg×16=48.0kgf	30kg×16=480kgf
風速U(m/s) (単位1秒につきメートル)	風速=4×√引き上げ力kgf	4×√48kgf=27.7m/s	4×√480kgf=87.6m/s

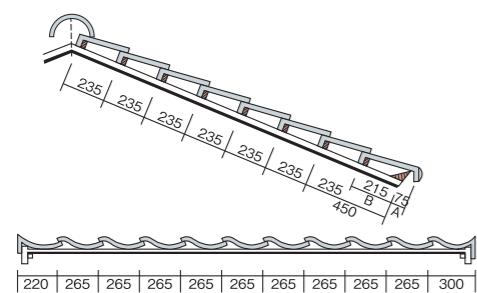


■標準屋根勾配

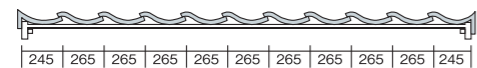


※この性能値は、保証値ではありません。
※実際に施工時には、地域や建物の種類等を考慮し、下地に注意してください。
※屋根勾配4/10未満の時は、工事店にご相談ください。

■差し葺きの場合



■覆せ葺きの場合



■製品仕様

寸法	全長	305mm(±3mm)
	全幅	305mm(±3mm)
働き寸法	長さ	235mm(±3mm)
	幅	265mm(±3mm)
葺き枚数		16枚/m ²
重量		45~47kg/m ²

■物性概要(実験結果)

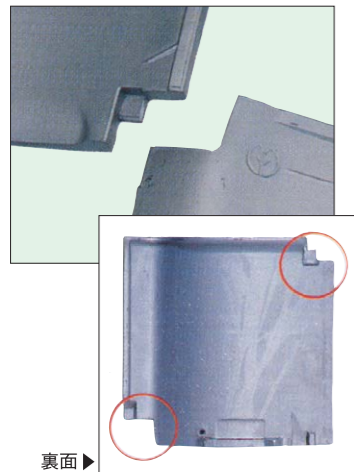
曲げ破壊強度	2,000N以上
吸水率	11%以下

構造と工法の出会いが、防災瓦の領域を広げました。

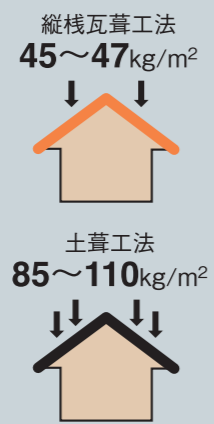
独自の合体構造と特許工法の縦棧工法で、バツグンの強さを発揮します。

「ナイスだぜガッチリくん」は、画期的な特許工法と構造によって自然災害から家と屋根を守る、最新の防災縦棧瓦です。
切り込み部分のツメで、瓦と瓦をガッチリ組み合わせる《合体構造》。そして施工の際、横棧木に瓦を引っ掛け、縦棧木に瓦を組み込みロックする《縦棧工法》。このWの安心機能で、従来の土葺工法や引掛棧工法の欠点を克服、台風や地震によるヨコズレ・タテズレを止め、瓦の飛散や落下を防ぎます。
また、葺土を使わないので、屋根への荷重が大幅に削減されたことも大きなメリットといえるでしょう。

合体構造

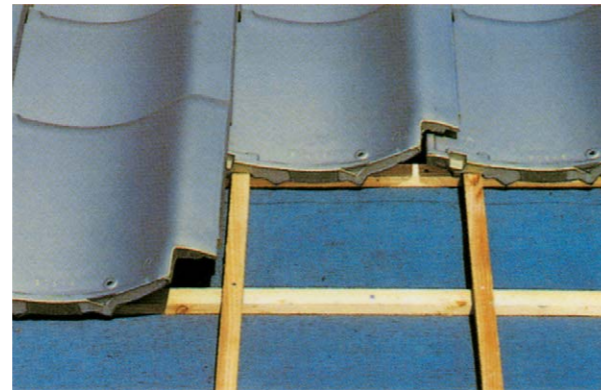


1㎡あたりの屋根重量

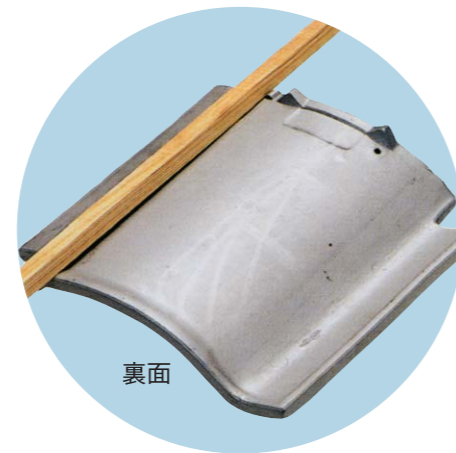


縦棧工法図

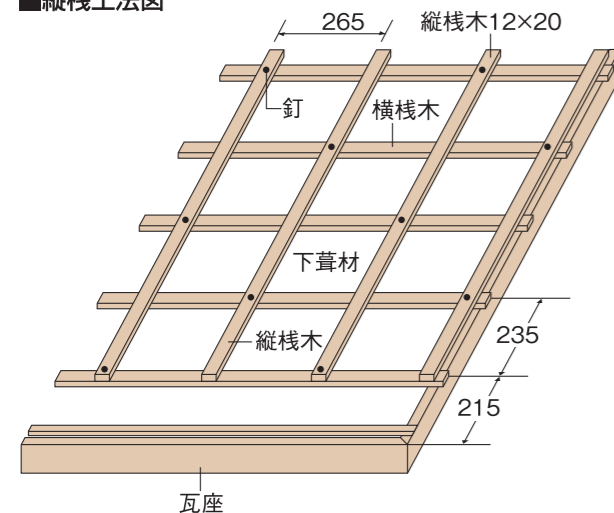
縦棧工法は特許工法です。



ナイスだぜガッチリくん(特許工法)

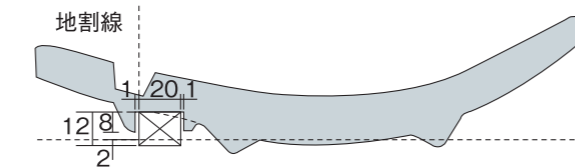


縦棧工法図



最初の下葺き材に棧木を打ちつけ、さらに縦棧木(12mm×20mm)を打ち込みます。そして、その縦棧木に瓦をガッチリと組み込ませます。縦棧の釘は、全数または1枚ごとに打ちます。

縦棧瓦断面図



製品仕様

寸法	全長	305mm(±3mm)
	全幅	305mm(±3mm)
働き寸法	長さ	235mm(±3mm)
	幅	265mm(±3mm)
葺き枚数		16枚/m ²

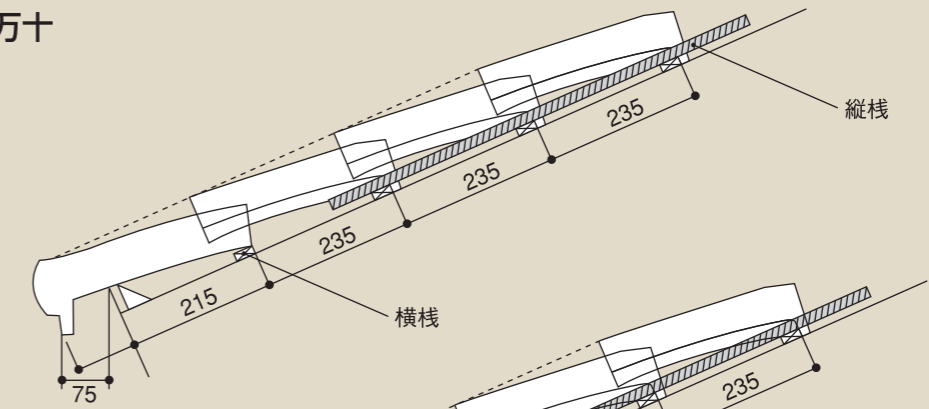
物性概要(実験結果)

曲げ破壊強度	2,000N以上
吸水率	11%以下

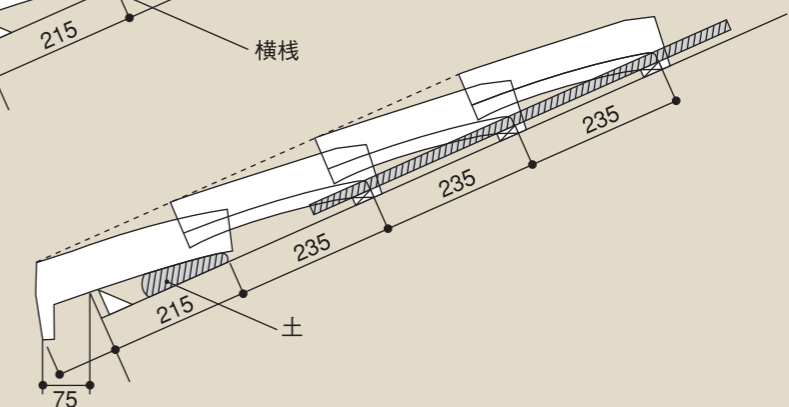
施工詳細図

<軒>

●万十



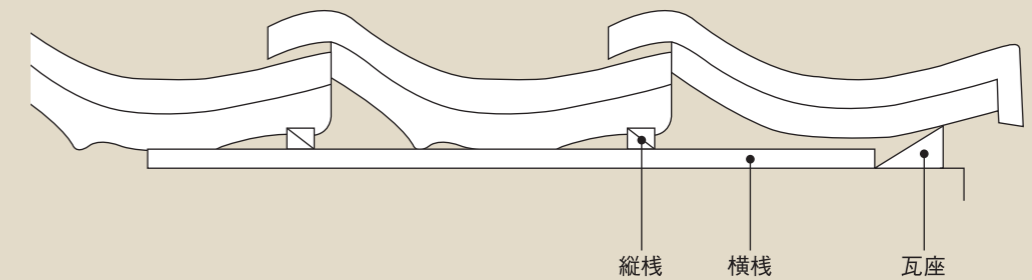
●一文字



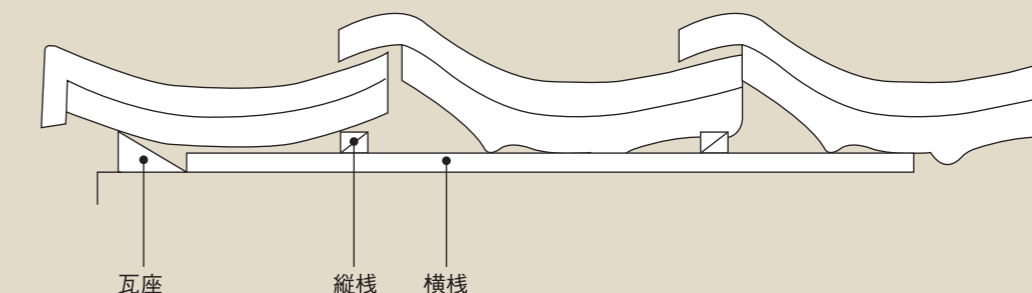
※万十唐草も、縦棧の爪が付いている場合は、万十の横棧まで縦棧をのばした方が、万十の施工は簡単です。一文字は、土で微調整をします。

<ケラバ>

●袖右



●袖左



右袖は縦棧爪が付いていませんが、上に乗せるだけで安定します。

次代へと続く“甍の波”を、緑窯業が伝えます。

瓦が日本に伝来して、約1,400年。

当時より続く淡路島の瓦づくりは、日本の歴史に多くの足跡を残してきたことでしょう。

現在、使われている瓦のほとんどは、淡路島を中心とした淡路瓦をはじめ、

愛知県三河の三州瓦、そして島根県の石州瓦の三大産地でつくられています。

私たちが目にする日本瓦は、燻化してつくるいぶし瓦と、釉薬を使った陶器瓦に大きく分類され、

淡路島は、いぶし瓦の生産量で全国一を誇ります。

このいぶし瓦は、銀色に淡く輝く色艶、しっとりとした風格から根強い支持があり、

なかでも色艶と色もちで群を抜いている淡路のいぶし瓦は、

日本瓦の代名詞と言っても過言ではないでしょう。

私たち緑窯業株式会社は、このように素晴らしい淡路瓦を、

より多くの人に知ってもらいたい、そして使ってもらいたいという思いから、

新製品の開発、生産、普及など、あらゆる面での活動を拡大。

瓦づくりを通して、淡路島に根づいた日本の伝統の技と知恵を、

次代に伝えていきたいと考えています。

会社概要

創 立	昭和38年11月
資 本 金	4,950万円
代 表 者	代表取締役社長 前川 雅文
営業種目	いぶし瓦製造販売 各種陶器瓦販売
生産品目	いぶし和瓦、平板瓦
生産能力	いぶし和瓦160万枚 いぶし平板瓦40万枚
従業員数	50名

生産設備

最新鋭コンピュータシステム
トンネルキルン(日本ガイシ製)
平板瓦 8行1段 1基
和 型 8行1段 1基
和 型 10行1段 1基
コンピュータシステム
単独窯(2,000枚) 1基

平乾燥設備	和型棧瓦 2基 平板瓦 1基 のし瓦 1基 役物瓦 1基
-------	---------------------------------

取引銀行	淡路信用金庫 掃守支店 商工中金 神戸支店 三井住友銀行 洲本支店
------	---



■本社各工場 日本工業規格適合性認証書

淡路瓦の特性

耐震性

台風や地震など、自然災害の多い日本では、屋根材を選ぶにも、より慎重を期す必要があるでしょう。その点瓦は、素材自身が強度や耐圧性に優れているだけでなく、形態上のアイデアや施工法による工夫で、衝撃によるズレや落下を防止。安心してお選びください。

耐寒性

瓦はかつて、寒冷地では活用されませんでした。それは瓦なかの水分が凍結して、亀裂や剥離が発生したからです。しかし今は、吸水率の抑制や強度の増大など、品質が向上されたことから、北海道、東北などの北国でも使われるようになりました。

耐火性

建築基準法に明記されている通り、完全な不燃材である瓦は、火災のときでも割れたり、溶けたり、有毒ガスが発生したりすることがありません。特に淡路瓦は1,000~1,060℃の窯でじっくり焼き締めますから、耐火性は折り紙付。逆に屋根からの類焼を防ぎます。

耐火建築物(建築基準法第2条第九号の二)で不燃物として規定

安全性

断熱材として使われるアスベスト公害が問題になっています。でも瓦屋根にはそんな心配はいりません。瓦はもともとナチュラルな素材。人にも環境にもやさしい理想的な屋根材です。また、酸・アルカリにも強いことから、大切な住まいを酸性雨から守ってくれます。

通気性・断熱性

瓦は、夏涼しく冬暖かい特性を持っています。その重なり部分には、空気だけを通す道があり、屋根全体がエアコン状態。さらに瓦自身も熱を反射します。また高温で焼き締められた瓦は、熱伝導率が低く断熱性に優れていることから、冬場でも安心。四季のある日本の住宅には最適の屋根材です。

経済性

日本の気候、風土に育まれ、様々な自然災害に耐えながら現代へと伝えられてきた瓦。その強さは、1,400年余りの歴史が保証してくれます。耐久性に優れ、丈夫で長持ち、メンテナンスも手軽なことから、長い目で見れば経済的にも優れた屋根材だと言えるでしょう。